

●地区別会議で話し合われたこと

	地域で実際にやっている取り組みやできそうなこと
中央地区	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスが入ると地域との関係が断絶する。関係が途絶えないようにしていきたい。 ・地域のかかりつけ医がいない場合、地域の医師につなげていく。 ・月に1度歯科にも通院し、外出の機会をつくる。 ・金銭管理について、家賃の引き落とし対応など、担当 CW と連携し、検討する。 ・電気料金滞納により停電した場合、部屋の明かりの確保のために、懐中電灯のライトを上向きにし、その上に水の入ったペットボトルを配置することで、部屋全体を明るくしやすい。 ・信頼関係構築のために、食事などの現物支給を行う。 ・Kさんをコンタクトパーソンとして、訪問などを行い、サービスにつなげる。
小田地区	<ul style="list-style-type: none"> ・薬局へ処方薬を取りにくる際にしっかり話を聞き、ニーズ等の発見ができる。初回無料訪問が可能。服薬がきっちりできれば薬の量を減らすことができるかもしれない。それがフラツきの軽減になるかもしれない。 ・何をどうして欲しいのかをケアプランに落とし込んでほしい。本人の意向を反映することや強みを活かすことが大事。 ・武庫之荘にワンコイン（500 円）で家具の移動などを手伝ってくれる NPO 団体がある。 ・転倒予防などの環境への気付きがあるといい。動画や写真でリハビリ専門職に相談するのもいいかも。 ・借金を解決できたら、人間関係も解決できる。 ・感染症予防等のため、清潔にすることが必要。 ・身なりや身の周りの整理ができるといい。 ・アセスメントを適切に行うことが重要。債務の全容解明をすることで、人間関係の修復が見込めるかも。 ・心不全の悪化予防が必要。本人自身が感染症のリスクなど病識に欠けているなら、それを理解してもらうように支援する人が必要。
大庄地区	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員 1 人につき 2 人の協力員が付いているが、個人情報の兼ね合いがあり、協力員と家庭訪問に同行出来ない。見守りについては協力員と一緒に行くようにしている。 ・こども食堂での食事。 ・居宅療養管理指導が入るのがベスト。しかし、出来ない場合は、月に 1 回でも薬局でゆっくり話を聞いたり、服薬・残薬のチェック。CMが本人のかかりつけ薬局を把握できていると連携が取りやすい。 ・本人はKさんを頼っていたが、他者を拒絶しているわけではないので、Kさんがもっと元気なうちに色々な人と早めに近隣でつながれる場所を作る。 ・団地の人の受け入れがよければ、認知症の啓発活動などが出来たら。近隣に嫌われている現状であれば、一旦支援者のみで関わり、近隣との関係をリセットしたのち再度、住民との関係を再構築する。 ・気持ちに寄り添える人を探す。病気に対してどう思っているか、病識によって対応が変わる。 ・保護費をすぐに使う人も多く、介入しづらい。後見人をスムーズにつけられるようにする。 ・お金から人間関係を崩されたのか、Kさん以外にも関わりがあったのでは。支援者の価値観もあり、時間をかけて解決していく事が必要。入院しない生活を送る為にはリハビリ系のサービスが必要。 ・ラジオ体操に行っているのに、周りの人は臭いを感じなかったのか？なんとなく生活が回っており、お金を何に使っているのか知りたかった。 ・社会参加、社会貢献が出来ない事の喪失感を理解する。ヘルパーが入る前に周りの人たちが訪問する。地域の人々との関わりを再構築する。

●地区別会議で話し合われたこと

南部混合チーム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出前講座等で認知症に理解してもらう。 ・ Kさんに頼りすぎな印象がある。本人が好きな人経由で、色々な提案などを伝えるアプローチはどうか。 ・ 現状制度としてはないが、セラピスト等が気軽に訪問できる（CM等の支援者が相談でき、契約等のわずらわしい手続きなしに）制度があればいいと思う。 ・ 支える側のフォローが必要。近隣住人等に出前講座を通して認知症の理解を深めて頂く。排除しない環境作り。 ・ 小田地区でアルコールを提供するサロンが2ヶ所ある。飲酒できる方なら、そういう場所でコミュニティを作ってもいいのでは。 ・ 気軽に集える朝ごはんの会があってもいいと思う。
北部混合チーム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のかかりつけ医をもつ。他に適応障害などあるかも。地域の医者ならわかるかも。 ・ 多摩ニュータウンなど、孤独死ゼロをうたって行政がバックアップして団地にリーダーをつくっている。 ・ 薬剤師が初回は無料の訪問をする。残薬バッグを活用する、医療につなげていく。 ・ 介入拒否のケースは多いが、弱り待ちではなく、コンタクトパーソンをみつけることを大事にしている、近所の方であることも多い。 ・ 色々な人に聴きまわる、おせっかいな近所さんは探し回っているところに来てくれるもの。 ・ コミュニティーナースが尼崎でも増えつつあるので、ラジオ体操の現場に行ってもらい、健康チェックをしてもらう。
立花地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員は地区ごとにやり方がバラバラで、地域に応じたやり方をやっている。地域の中にはセキュリティの高いマンションも多く、本人と話ができるようになるまでに2～3年かかることもある。立花地区の見守りでは、民生委員が社協の中に入って、一体となって活動していく形ですすめている。民生委員はつなぎ役としての役割の大切さを感じている。民生委員の中では、個人情報、守秘義務の問題で、知り得た情報をどこまで共有してよいのかということに難しさを感じている。民生委員の学習会などでは、地域医療の大切さを実感していて、地域の医師ともコンタクトを取っていかないといけないと思っている。 ・ 地域につなぐこと、関係性を作ることは、時間はかかるが重要なことだと思う。介入拒否があるが踏み込んで支援できた事例について共有したい。 ・ お友達付き合いでしていることを何もかも生活支援サポーターの役割に置き換えることはできない。近所づきあいとボランティアは違うことを丁寧に説明するようにしている。役割を明確にして丁寧につなぐことが、社協や包括の役割であると思う。
武庫地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ リハ職の相談窓口があれば、専門職等がアドバイスしやすい。あまつなさがワンクッションになってもよいかもしれない。 ・ ふれあい薬局のコミュニティ茶屋を活用する。 ・ 人との関わりを避けている人ではないので、いき百に行き毎回バイタルチェックを受けたり、定期的にサロンに行き、体調を周りに気付いてもらうのもいいのではないか。
園田地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人は大病院に月1回受診するだけのため、地域のかかりつけ医が必要。転倒、骨折させない事が重要だが、大病院ではわかっていても出来ない。 ・ 行政が旗振り役をし、地域で見守っていく。 ・ 不衛生な状況について、ラジオ体操と一緒にしている仲のいい方に何か指摘してもらう。本人は「心細い」と「出来る」を行ったり来たりしており、本人の中でも整理がついていないのではないかな？ ・ 本人は孤立しているわけではない。 ・ 本人に1つつきチンと説明していくが、誰をどう信用していくか？自治会、近隣の人から支援してもらえたら。 ・ Dr.の言う事はきいてくれるかもしれないので、受診してみるの。 ・ 飲酒量などは寂しさの現れなので誘ってくれる人を探す。 ・ どうしてもイベント待ちになってしまいがち。CWが家賃の支払いを手伝ってくれる。フードバンクなどを利用し、本人と信頼関係を築く事が重要。